

町民の声内容（12月9日）

【タイトル】環境問題について（八頭町内のスーパー、店のレジ袋について）

郡家図書館で本を借りた際、窓口に紙袋があり「ご自由にお使いください」とあります。八頭町ならではの思いやりだと感心しました。そこである思いつきを数か月考えましたのでご意見します。

今や海洋を含め、環境汚染と地球温暖化に世界中から小さな子どもまで声を上げ環境破壊を阻止しようと取り組んでいます。災害も増えました。私たちには何ができるのでしょうか。私の身の回りから真剣に考えてみたいと思います。買い物をする主婦の視点からではありますが、例えば、ナイロン製のレジ袋を八頭町から廃止できないでしょうか。無料や5円のナイロン袋を廃止し、数十円の紙袋を購入していただく方法に予算はかかりません。図書館のように紙袋の寄付もいい案だと思います。町内のスーパーにご理解とご賛同をいただき、小中学生にポスターや呼びかけの協力を依頼し、鳥取県の小さな町内から県内へと広がるような取り組みに挑戦してみたいと思います。ご賛同いただける皆様はありませんでしょうか。来年度4月から率先して取り組むことができないでしょうか。小さなことからではありますが、成果としては小さくても、意識を変える力があると思います。先々の子どもたち世代の課題を共に考え、一歩踏み込んで、今出来ることに取り組んでみませんか。私も提案者として出来る範囲で協力いたします。

ドイツでボランティアをした際、社会をより良くしようとする市民の小さな行ないに多くを学びました。アジアの複数の途上国の河川に浮かぶプラスチックごみにも驚きました。ごみは自然に帰すと思い捨ててしまうのです。また、日本を観光したドイツの方から、素晴らしい文化を持つ京都でも、近代化都市東京でも、サービスのようにレジ袋を渡し、小さなナイロン袋に過剰に包装する日本の環境意識の低さを指摘されました。オリンピックの記念すべき年ですし、そんな気づきから、私たちの住む町から出来そうな取り組みとして、水面に落ちる雫のように環境問題と温暖化対策を少しでも行動に移し、少しでも町民の意識を変えて、子どもたち世代の課題に共に取り組める大人として行動したいと思います。皆様、如何でしょうか？